

ジャウィ文献講読講習会

坪井祐司

JAMSによる公開セミナーとして、6月26日(土)、27日(日)の2日間、東京大学駒場キャンパスにてジャウィ文献講読講習会が開催された。この講習会は昨年到现在まで2回目であり、今年度は、地域研究コンソーシアム、「ジャウィ文献と社会」研究会、京都大学地域研究統合情報センター公募共同研究プロジェクト「脱植民地化期の東南アジアにおけるムスリム社会の動態」の共催により実施された。

ジャウィとは、アラビア文字表記のマレー語である。ジャウィはマレー語がローマ字化される以前にマレー世界で普及していた表記法であり、現在でも一部のムスリムの間で使用され続けている。このため、ジャウィは歴史史料だけでなく、現在のマレーシアでも目にすることがある。ジャウィを読むには、マレー語の知識に加えてアラビア文字と綴りの法則性を理解する必要がある。本会は、その方法論を習得する機会を提供するために企画された。

プログラムの概要は以下の通りである。

- ・ジャウィ講習・初級編(講師:山本博之)
- ・ジャウィ文献講読および研究発表

『カラム』連載記事「クルアーンの秘密」の検討:第15回「イスラームのウマットの分裂」(國谷徹)

「第二次大戦後のシンガポール情勢とマレー・ムスリム」(坪井祐司)

「国民教育制度確立期におけるマレー・コミュニティの教育議論」(金子奈央)

今回は、初級編と文献講読編の二部構成にて行った。初級編では、山本博之氏を講師として、ジャウィ綴りに関する基礎的な講座を行った。文献講読では、1950、60年代にシンガポールにて発行さ

れていたジャウィ雑誌『カラム』(Qalam)をテキストとした。あらかじめ担当者が関心に応じて記事を選び、作成したローマ字への翻字案を全員で検討するとともに、担当者がテキストの背景に関する解説を行う形をとった。

今回は東京外国語大学の学部生の参加者も見られた。同大学マレーシア語科ではジャウィが必修となっており、学生のジャウィに対する関心は高いとみられる。ただし4年間の学部課程のうち1年間しかジャウィを習う時間がないため、実際の文献を読む機会はほとんどなく、ジャウィの学習を継続したい場合にはその機会を外部に求めることになる。そのような受講者に対応するため、今回の講習会では初級編と文献講読編の使用テキストの難易度の差が大きかったが、その中間にあたる簡単なテキスト講読を行ってはどうかという提案も出された。また、今後はマレーシア語を学ぶ学生が多い大学を会場として講習会を開催することにより、1つの大学で十分に対応できない言語の講習の場を提供することにもつながると思われる。今後とも、ジャウィ研究の一環としてこうした一般公開の講習会を企画していきたいと考えている。